

二
(四)
2

正 14-6-5

報會支庫兵會央中合組業產

號九十三百第

震災慰問號

大正十四年六月五日發行(每月一回五日發行)

這般北但地方に起りたる大震火災は其の慘禍激甚にし
て三百有餘の生靈を奪ひ幾千の家屋を倒壊し燒燬し巨
萬の財寶を滅失せしめたるは洵に痛痕措く能はざる所
にして罹災者各位に對し同情の念禁ずる能はず。
謹で天災の犠牲となりたる幾多の英靈を弔ひ併せて罹
災者各位の奮闘努力に依り其の復興の一日も速ならむ
ことを祈る。

大正十四年五月二十八日

産業組合中央會 兵庫支會
兵庫縣信用組合聯合會
兵庫縣購買組合聯合會

◆北但地方の震災

去月十二日午前十一時十分突如として北但地方に起
りたる大震災は、其の被害の範圍廣からず雖其の激
甚の程度は一昨年關東地方に於ける震災より遙かに大
にして、倒壊家屋千五百戸、燒失家屋二千二百戸、死
傷者千有餘人の多きに及び、一度慘憺たる現場を視る
とき悽慘悲痛の感胸に迫り同情の涙滂沱として禁する
能はず。

但馬は天恵に乏しく、就中今回の罹災地たる湊村の
一部の如きは、或は火災に見舞はれ、或は洪水に襲は
れ、疲弊困憊の裡に奮闘を續け、漸く前途に曙光を認
めむとしつゝあるの秋、復もや斯の災禍に遭遇す、天
道の致す所なりとは云へ、里人の心中を察し其の薄倖
を憐み、泣かむと欲して泣く能はず。左れと吾人は徒

らに天道を恨みて悲嘆し、自暴自棄に走るを好まず、
尙ほ此の上最善の人爲を盡し、所謂轉禍爲福の實を舉
ぐべく一段の努力を吝むなからむことを、罹災者各位
に切望して竭まざるものなり。

今次の災禍に方り、畏くも、聖上陛下は侍従を差遣
して親しく罹災民を慰め賜ひ、剩さへ多額の内帑金を
下賜あらせられ、滿天下の同情亦翕然として集まり、
慰問に救援に殆んど餘す所なし、之罹災民各位は勿論
吾人も亦感激に堪へざる所なり。

罹災者各位は自ら起ちて復興の事に當るべく、吾人
は産業組合の大精神たる共存同榮の趣旨に基き進んで
之が施設經營を助け、以て聖恩に答へ奉り、併せて天
下の同情に酬ゆる覺悟なかるべからず。(行くへ生)

◆本縣知事の告諭

本縣知事は五月二十七日を以て左の告諭を發せられ
たり。

今月二十三日縣下城崎郡豊岡、城崎兩町を中心とし
て北但地方を襲ひたる地震は加ふるに火災を伴ひ被

害甚大にしてその慘狀實に言語に絶す、天皇、皇后
兩陛下、攝政殿下深くこれを御軫念あらせられ畏く
も優渥なる御言葉を賜ひ侍従を罹災地に遣はせられ
親しく罹災民を慰め給ふと共に御内帑金を發して以

て惠撫を行はせらる、本縣は既往數次の災害に屢々恩賜を辱うし今亦この殊寵に浴す、誠に恐懼感激に堪へざるなり、聖恩を蒙る事斯の如く深く天下の同情亦翕然として罹災民の上に集る縣は全力を擧げて應急の措置を執り各方面の協力を相俟つて救援今正に遺憾なきに近からんとす、希くは罹災民は徒らに悲嘆に暮るゝ事なく自ら奮ひて將來の計を樹て自ら

本會の活動

勵みて復興の事を計り以て上聖明に答へ奉り天下の同情に報ひる所あるべし、一般縣民亦深く聖旨を奉戴して協心戮力罹災同胞の救護に應じ進んで復興の業を助け以て共存共榮の實を擧ぐるに努むべきなり。

大正十四年五月二十七日
兵庫縣知事 平塚 廣義

職員特派

北但地方に震災突發するや本會は支會長代理として行方主事を被害地に派遣し、組合員を慰問せしめ、被害状況を調査せしめたり、組合の被害状況の梗概如左

- 一、八條村信購販組合（八條村の内九日市上の町）
本組合は杞柳行李の販賣、原料の購買を主とするものにして其の所在地は豊岡町に接續し事務所及倉庫は豊岡町に設置す、一箇年の原料購買額七萬五千圓販賣額十萬圓に上れり事務所、倉庫共に震火災を免かれ損害としては未製品を加工する爲町内職工に配給したる分二千圓乃至二千五百圓に過ぎず。

二、信用組合豊岡同榮社（豊岡町一圓）

本組合は大正十三年五月の設立に係り現在組合員五百十三人なるも設立後専務理事出雲清助の奮闘努力に依り近來頓に活氣を呈し組合員の如き年末迄には優に千名を超ゆべく拂込濟出資金及貯金を合し約十萬圓の資金を貸付しつゝあるが組合事務所は焼失し組合員は殆んど全部罹災し専務理事出雲清助の如きも商品器具家屋を焼失し辛ふして身を以て免れたり但し組合の帳簿及書類は無事なり。

組合員の大部分は小商工業者にして貸付擔保品は商品又は家屋にして而かも之等は全部焼失したる爲當

分回收の見込なく今後事業の經營は頗る困難にして約七萬圓の貯金に對し拂戻を要求する者あるも餘裕金僅かに八千圓位にして如何ともする能はず。

市街地組合の常として周囲の壓迫甚しく一時殆んど解散せむとする迄の悲境に陥りたる中を出雲専務理事が自己の營業（度量衡販賣）を家族に委ね専心組合の爲に努力し漸く信用を得て其の緒に就き續々加入申込者あり今後一兩年を経て基礎成らむとする秋に際し此の災厄に遭ひたるは惜みても尙餘りあり。

三、内川村信購組合（内川村一圓）

豊岡、城崎の中間に介在し三百八十六戸の内倒壊家屋三十八戸焼失二十七戸死亡九人負傷者二十人にして内戸數六十戸を有する飯谷落部は全滅せり、組合事務所は最近の新築なる故か小破に止まりたるも組合員の被害大なるが故に組合事業經營上困難を感ず

四、小島信購組合（港村の内小島）

戸數八十四戸の内倒壊家屋四千四戸、死亡一にして組合には直接の被害なきも今後の事業經營上困難を感ず。

五、田結信購販組合（港村の内田結）

戸數七十五戸全部倒壊死亡七人、負傷者三十七人あり

りて全滅せり、本部落は養蠶を以て生計の大部を維持し其の收入春蠶のみにしても二萬圓内外に上れり水田は僅かに十二町歩にして自給する者十戸に過ぎず。

數年來蠶業に全力を注ぎ家屋の如きも養蠶向きに新築又は改築したるもの一朝にして破壊され本部落の前途は實に暗澹たるものあり組合には直接の被害なきも理事者は經營上如何にして此の難關を切抜くべきかと焦慮しつゝあり。

六、畑上信購販組合（港村の内畑上）

戸數六十五戸の内倒壊六十戸負傷者三人なり本部落は大正元年五月僅かに十三戸を残して全部焼失し大正七年には大洪水に襲はれ疲弊困憊の裡に奮闘を續けつゝありしが更に今回の震災に遭遇せり本村の産業は木炭、養蠶なるが春蠶は自然に放任せられ減收を免かれず田結と同様の状態に在り事務所は被害なし

七、城崎町信用組合 は昨年十月の設立に係り漸く出資第一回（六百五十口、三千二百五十圓）の拂込を完了したるのみにして組合としては被害尠なし。

八、右の外竹野村香住村 其の他にも被害あるも組合事業に大なる影響を及ぼすことなし。

義捐金募集

五月二十八日義捐金の募集に着手し左記書面に募集趣意書を添へて各郡部會長に依頼せり。

大正十四年五月二十八日

産業組合中央會兵庫支會長 大谷吟右衛門
各郡部會長宛

拜啓今回但馬地方の大震災は洵に御同情の至りに御座候本會は早速行方主事を被害地に派遣し慰問せしめ候處別紙の通義捐金を募集することに相成候間精々應募致候様御配慮相煩し度右御依頼申上候 敬具

追て別に申込額を豫定する譯には無之候へ共一昨年關東地方震災當時標準額を示され度旨申出候向も有之凡そ本年度剩餘金見込額の百分の一乃至二以内を標準と致度豫定に付御合置下され度候

義捐金募集趣意書

拜啓今回但馬地方に起りたる大震災の範圍は廣からざるも其の激甚の程度に至りては一昨年關東地方の被害に劣らざる慘狀にして豊岡外數箇町村に於ける産業組合員の罹災者も不尠惹ひて組合の事業經營上支障を來し前途洵に憂慮すべき向も有之候本會は不取敢職員を

被害地に派遣し慰問致候處縣下産業組合の同情に懇へ義捐金を募集し以て罹災組合員を慰め組合事業の復興を助成致度候間左記事項御承引御賛助被成下度右得貴意候 敬具

大正十四年五月二十八日

産業組合中央會兵庫支會長 大谷吟右衛門
縣下産業組合各位

記

- 一、義捐金は一口金貳拾圓以上とす
- 二、義捐金の締切は六月十五日限とし現金を添へ各郡部會へ市は直接本會へ申込まれたし
- 三、義捐金の處分は本會に一任せられたし
- 四、義捐金は本會々報に登載して受領の證となす

見舞狀發送

拜啓今回北但馬地方の大震災は其の激甚の程度寧ろ關東地方に於ける被害に劣らざる慘狀に御座候處貴組

合事務所並組合員各位の御安否如何に御座候哉拜承致度候に付被害の狀況御報告被成下度右御見舞旁得貴意候 敬具

大正十四年五月二十八日

産業組合中央會兵庫支會長 大谷吟右衛門
組 合 長 宛

慰問

中央會の見舞電報

五月廿四日産業組合中央會は左の電報を寄せられたり
貴縣下震災ニ對シ御見舞申上ク、組合ノ被害憂慮ニ堪ヘス、調査ノ上御報告アリタシ

中央金庫の見舞狀

五月廿四日付を以て産業組合中央金庫は左の見舞狀を寄せられたり。

拜啓新紙の報導に依れば此度は貴地方激震にて非常なる慘禍有之候由驚入候貴會並各位の御様子如何哉と御案申上候右不取敢御見舞迄如斯御座候 敬具
大正十四年五月廿五日

産業組合善後策協議

被害地産業組合の善後策としては共同一致以て事に當るべく趣旨の徹底、低利資金の融通、物資の廉價供給、其の他必要と認むる事項なるが、目下の處何れも現場の整理に忙殺され居る狀況なるを以て、整理其の緒に就き人心稍安定したる時機を見計ひ、城崎郡役所に理事者の會同を求め協議會を開き決定する豫定なり。

産業組合中央金庫

理事長 岡本英太郎

縣購聯の慰問

産業組合中央會兵庫支會御中
兵庫縣購聯組合聯合會に於ては森主事を震災地方へ急派し被害地組合の慰問を爲さしむると共に慰問品として同會特製の蠟燭八千本を罹災地に寄贈したり。

縣信聯の慰問

本縣信用組合聯合會にては豊岡出張所の燒失及所屬組合の狀況調査並に慰問の爲め近藤理事、赤松書記の二名を震災地方へ特派し親しく慰問せしむる所あり尙組

合今後の經營上につき資金の需要等を調査し應急の處置を講ずべく計畫しつゝあり。

◆震災地を巡りて

◆諺に「地震、雷、火事、オヤヂ」と云ふが、オヤヂは必しも怖い者ではない、オヤヂの怖い半面には慈悲がある、去れど地震には血も涙もない、豫報もせなければ、跡も構はない、世の中に地震程恐ろしいものは二つとなくからう。

一昨年の恐怖の夢まだ覺めない裡に、復もや此の度の慘禍を現た、吾人は天道の無情に對し無限の不平を訴へざるを得ない、嗚呼五月二十三日——此日は如何なる惡魔の呪ひの日ぞ。

◆私は廿五日揖保郡に於ける組合長會議を終へて姫路に一泊し、翌朝五時廿分同驛發列車で罹災地に急行した、驛々は救援に赴く青年團、消防組、さては肉身の身の上を氣遣ふ翁さん婆さん、夫の安否を案する奥さん、スコップを手にする人、齋を擔ぐ人、リツクサツクを肩にする人などで混雑し車中すし詰で身動きも出来ない、養父、八鹿の邊から彼所、此所に板戸や、疊や、蓆や、蓆などで造つた假寢の小屋が見ゆる「ハハ此邊も大分揺つたナ」と口々に云

ふ、地震話で持ち切りて居る、無心の汽車は豊岡驛附近に進む「アアマー、ヒドカッタこと成程ナ」と異口同音に當時を偲ぶ。

◆豊岡驛は跡形もなく崩れ、其の混雑は恰も戦場の様で、兵體さんが、いと優しく乗り降りの世話をして居る、停車場を出ると直ぐ突き當りに、避難者の場所氏名がイロハ別けに掲示されてある、豊岡中學の生徒が擔任して調べ上げたとのこと、停車場の傍の二階建の家が下のみ折れて二階は依然として現狀を維持して居る。

◆汽車中で出合つた避難者の話に「私は外に働きに出て居た、六十二に成る父は下敷になつて死にました、此の子(背負たる未だ二歳位の子)と妻は筆筭の傍に居た爲助かりました」と、夫れやこれやを參照すると二階が安全として逃ぐる暇のないときは机とか、箱とか、何か支へる物を見付けることが危急を救ふ何よりの手段である、此度の大地震も火災が伴はなかつたら斯く迄悲惨に陥らなかつたであろう◆但馬の名邑豊岡は倒れた、昨日迄は但馬の咽喉を以て誇り、但馬文化の中心、物資集散の中心地たる豊岡は満目只之荒涼たる憐れな焼野原と化した、初夏

の日射と、焼け跡の蒸し苦しい異様の暑さと、いやな臭氣の中を物ともせず縦横に馳驅する救援の人々を眺め、憔悴した罹災者のさまやう姿を見るに、人知れず涙が胸に込み上げて来る、縣から派遣された救援團の一人北井農林主事補が、眞黒に成つて自動車の上で指揮して居る勇ましい姿の尊さよ。

◆私は被害地の組合を慰問し其の被害の狀況を調査する使命を帯びて居る、第一着に八條信購販組合に飛び込む、所詮駄目だと想像して居た組合は事務所倉庫共に類焼を免れ理事者何れも健在、本組合は柳行李製造者が組合員で原料購買、製品販賣に成功し蓋し事業組合としては本縣唯一の模範組合である、此の組合に被害のなかつたのは不幸中の幸福であつた。

◆八條組合を辭し、信用組合豊岡同榮社の専務理事出雲清助氏を訪ねた、事務所は焼失、同氏は家族を伴ひ辛ふして身を以て免れた位で、避難場所は容易に見付からず、掲示板に女學校の東と云ふを便りに右往左往幾回咽喉は渴くが一滴の水さへ飲むことは出来ない、漸くにして在所が判つた「出雲さん」——僕です、變り果てたる出雲君の姿、同氏の人爲りを

知つて居る、私は胸迫りて碌々慰問の言葉さへ交すことか出来ない、二人の目は涙の露を宿して居る、二人の者が話をして居る時六つ位の坊ちゃん傍て話を聞きニコ／＼しながら被害の數字を繰り返す其のイデラシさよ、修學旅行に東京に行き地震と聞いて直ぐ引返した高女在學のお嬢さんは流石に悄然として涙含んで居られる。

◆私が去らむとすると、襦袢一枚の出雲君感愾に見送られ、お出で下だしたことは組合長にも傳へます「左様なら御丈夫に」と此所を辭し救援本部に磯野城崎郡長を訪ね、農工銀行豊岡支店を見舞ひ内川村に道を進んだ、内川村の信購販組合事務所は最近の新築であるから小破に止まつたが、戸數六十戸を有する飯谷部落は全滅し學校は倒壊しなかくの傷手である、組合の役員何れも救援に赴き不在、見張りの駐在巡查と青年團の人に來意を告げ城崎町に向つた。

◆湯の町、歡樂の仙境一千三百年の歴史を有する天下の名温泉城崎戸數六百五十、人口三千五百の城崎町は瞬間にして潰滅した、人も知る如く城崎町は三方山に圍まれ、東の一方は圓山川を控へ全くの袋地

である、其の上道路は狭く、山は險岨であるから殆んど避難の途がない、初夏に茂る新緑の樹々まで焼かれて仕舞つた位であるから勘まらない、死傷者が續出したのも無理からぬ事である。

◆想へば去年の四月十九、二十両日に亘つての本縣産業組合大會は此の地に於て開かれ、出席者無慮千五百名、城崎開關以來の人出であると稱へられ、當時村上助役は終始一貫會務に奔命された、先づ救済事務所に此の印象深き助役を訪ね御見舞の辭を述べ「ごうも有りがたう、各方面から色々ご御同情を受けまして」元氣の良い助役の顔には復興の氣分が漲つて居る。

◆當時大會の第一日は死亡組合役職員の追悼會で、其の會場に充てられた蓮城寺、大會々場であつた俱樂部、何れも今は何所に在るか其の位置さへ判明しない、榮枯盛衰は此の世の常とは云へ、彼の盛會を極めた大會、彼の盛裝された會場、金色燦たる追悼式場囃鬨たる奏樂の音、神々しき天童の姿、和氣霽々たりし園遊會夫れから夫れへと當時を追懐し、今眼前に阿鼻叫喚の此の光景を眺むるとき感慨無量轉々斷腸の思ひをした。

い、不圖海の彼方を觀れば巨船が黒烟を吐いて居る、之は舞鶴港より派遣された救援艦である、漸くにして田結部落に辿り着いた。

◆田結は一貧小部落である、戸數七十六の内倒壊を免れたのは僅かに一戸で全滅した、其の慘めさは寧ろ城崎、豊岡以上である、死亡者もある、負傷者もあつたが、消防組及青年團は第一着に防火に努めた、夫れ故焼失しなかつた、其の沈着なる態度は他の範とするに足るものがある、私が居るとき、天理教から派遣された數名の慰問隊がやつて來た「何なりとも御用事があれば御申出下さい、若し孤兒と成つて引取る人がなければ御世話致します」などと數々の慰問の言葉を殘して立ち去られた、之が所謂宗教の眞諦であらう。

◆田結を辭し、同じ村の畑上にと足を運むだ、途中二人の子供が泥田の中に蝸を獲つて居る、「坊ちゃん何をして居るの、畑上は地震はドウダツタイ、家は倒れなんだか」「なんにもや、土藏が、タツタ三軒やられただけよ」夫れは結構なことであると獨り言しながら道を急ぐ、成程潰れ屋は一、二軒しか目に觸れないが、この家も、この家も満足な形のものはない

◆大會以來城崎町方面に行く毎に泊めて貰つた橋本旅館の家族は如何にと赤く爛れた小さい町、焼き残れる枯木を周圍に眺めながら橋本屋を訪ねた「橋本屋焼跡、家族は山腹の土藏に避難す」の木片が淋し氣に建つて居る、私の姿を見るや若主人公「アレ、ユキカタさんが見へました」と、緊張した顔に懐しみを帯び迎へて呉れる「御蔭で家族は無事避難しましたが、女中二人は可愛想に殺しました」と、いと氣毒想に語る、此所を辭し湊村に向ふ。

◆湊村は八百戸の内、百七十二戸焼失、三百七十四戸の倒壊家屋を出し豊岡に亞ぐ慘狀である、途中所々に龜裂を生じ、城崎町より程遠からぬ道路には何萬貫とも覺しき大石が墜落して横はつて居る、小島信購組合長岡本君を訪ふ、倒壊した自宅の整理最中であつたが、夫人と共に丁寧に當時の狀況を語る此所より對岸の田結、畑上の各組合を慰問すべく渡しを越ゆ、眞晝の日光はガン／＼照り付ける、腹は空る、道不案内の爲方向を謬り無駄道をするこ半里、城崎、豊岡邊は自轉車、自動車が疾驅し、行き交ふ人々駱驛として、織るが如しであるか、此所は全く交通不便な別天地であるから充分救援の手も伸びな

畑上信購組合事務所畑上震災事務所の札が掛つて居る、玉なす汗を拭ひながら刺を通じ來意を告げた聞けば此の地方は大正元年に部落殆ど全焼した爲、新築したのであるから倒壊はしない、外觀的には完全に住つて居るが柱の折れたもの、礎のグラグラして居るもの計りて、専門家の鑑定する所に依ると、大部分の家屋は手入れしなければ、此の儘這入ることとは不可能なことである。

◆大正元年の大火災に亞いで七年には洪水あり、之にも屈せず撓まず、今日迄奮闘して來た努力は今回の震災にて水泡に歸し、本部落唯一の財源である養蠶の如きも春蠶は全然駄目、組合にもモ一賣る米がなくなり、此の上はどうして行くやらと、遣る瀬なき悲嘆の數々を理事からシミジミと聞かされたときは他人のことのやうにも思へない、信用組合聯合會、購買組合聯合會も控へて居ります、私等も及ばずながら出来るだけの御世話を致しますと、慰めて此所を辭し、歸途里餘の山道、坂を登り降りして内川村樂々浦に出た、倒壊した小學校の前に青年團や、消防組などが跡仕末をして居る、先生が可憐の兒童を指揮して折れた柱や、裂けた板を運ばして居

る、向ふへは白衣の看護婦が數人救援本部へ引き上げて行く。

◆私はかくして震災地組合巡りを終へた、また竹野村香住村などへも、行くのが本意であり、又行かなければ濟まない譯であるが、中央會への狀況報告を急いで居る、義捐金募集、其の他の善後策に就ても計畫を進めなければならぬ、夫れで此等の村々へは失敬することゝし廿八日歸神した。

◆要するに、今回の災害地は一局部に止まつて居るが震動區域は可成り廣く、假りに彼らの山々が人家であつたとすれば其の災禍の及ぶ所蓋し東京以上であつたであらう。

城崎、豊岡などの狀況は新聞紙に依りて刻々報導されて居るが、其の他の村落のことは餘り詳しく判つて居ない、而かも其の慘狀に至りては両町以上の所がある、此所には救援の手も充分に届かない、世人からも忘れられて居る様な感じがする、私は被害地に對し其の場所の如何に依りて同情を區別するものではないか、有體に云へば内川村、湊村の如き、平素粗衣粗食に甘んじ孜々營々として働きたる天恵の薄い土地で終始して居る小農、漁民に對し一入の同情を寄するものであります。(五月二十八日行くへ生)

◆震災地の復興策

兵庫縣購買組合聯合會 森 健彦

慘憺たる其の光景

六月二十三日午前十一時二十分、但馬の一角に突如として起つた地震は、豊岡、城崎、港村等を中心とし附近數ヶ村に亘り、一萬二千餘戸の内倒潰せるもの千五百餘戸に及び、而かも地震に伴ふ火災の爲めに焼失せるもの二千三百戸、殊に壓死又は焼死せるもの三百八十餘人、負傷者亦七百を算するに至りては如何に其の慘害の激甚なりしかを知るに足るであらう。

自分は一昨年九月關東地方に於る大震災に遭遇し其の慘狀を知悉せるが故に、一層同情の念に堪へざるものあり且つ其の實況を目撃し、關東のそれに比し區域の大小こそあれ少しも異なること無き慘狀は到底筆にも口にも盡し得ず唯々「慘憺たるもの」と云ふ外に形容すべき字句を見出さぬ、と共に罹災者各位に對し慰むべき言葉が出ない。

禍を轉じて福となせ

而し此の廣漠たる燒野原を見渡し、昨の繁華なりし街衢を追想しても今は詮なし、天を恨むも及ばず佛者の

所謂宿生の因縁とあきらむる外なし、唯此の上は一層勇氣を鼓舞し勇往邁進すべきである、窮すれば達すと云ふ諺もある如く各自の努力に依りては速に禍を轉じて福と爲す時の來るは明である、獨り帝都なるが故に東京は速に復興せるに非らず、本邦優位の貿易港なるが故に横濱は復興せるにあらず、互に勵み勵まされ永き眠りより覺めて一段の努力を盡したる結果と云ふべきである。

城崎、豊岡亦東京、横濱と同じく昔年ならずして復興すべきは明である、況んや豊岡は但馬に於る商業の中心にして又特種の物産を有し、城崎は有名なる温泉の湧出するものあるに於てをやである、港村にせよ竹野村にせよ將た内川村にせよ豊岡、城崎の復興に連れ共に復興すべきは明である。

共同的施設の必要

商工業地たる豊岡に於ても然りであるが、就中城崎の如き外來客を相手とする旅舎専門の場所に於ては一層共同的施設に依りて其の復興を速ならしむるのであり又容易に之れが實行を期し得るのである、震災直後城崎町を訪ふた時、或人が其の昔八戸であつた城崎に立返る外はないと云ふ頗る悲觀的な話を聞いたのである。

が、自分は決して此の如く悲觀すべきものでなく、數名若は十數名……極端に……の者が復興し得たとしてみれば城崎の復興では無い、即ち七百戸の者三千六百人の人が皆一齊に復興して始めて城崎の復興である此の場合相倚り相扶けて以て共に復興の策を講ずべきである。

信用購買利用組合

震災地を慰問した時、大阪朝日新聞の寺澤君にも其の一端をお話しした事であつたが、豊岡に於る杞柳細工の如きは其の生産に従事する者を一團とせる、信用販賣購買利用組合を組織し原料及生計用品の共同購入、製品の共同販賣、器具機械の利用、資金の融通等此の際最も必要であり又斯くすべきである、現に八條村に於る組合が如何に好成绩を挙げつゝあるかを見ても明かなる事である。

城崎に於ても此の際舉町一致して信用購買利用組合を起し、資金の融通は勿論、衣食住一切の材料を共同購入し殊に浴客に對する食物の如きは共同炊事即ち利用組合の設備に依りて經濟的に衛生的に而かも文化的に充二分の満足と與へ、各戸に於る餘分の器具類を省略し、使用人を減少し、家屋の利用を増大し得る等、算

へ來れば相互の利便頗る多大なるものがある、此の際は根本的に一切の建て直しを爲すべき時である、因習に囚はれず、姑息に流れず、復興の爲に斷行すべきは是れである、長崎及博多に於ける百餘戸の貸座敷業者が既に共同設備の利用に依りて良好なる実績を挙げつつあるに非ずや、況や城崎の生命たる温泉が既に共同設備たるに於て、之に伴ふ設備も亦共同し得べからざる理由は無いのである。

吾人は城崎、豊岡及其の周圍に於ける各村の慘澹たる光景を目撃し、同情の念一層深きものあると共に其の復興の一日も速かならむことを祈り、敢て愚見一端を献策して罹災地各位の考慮を煩しうと思ふ。

◆震災地組合協議會

震災地に於ける産業組合善後策協議會は六月六日午前正十時より城崎郡役所に於て開催することに決定せり

◆協力一致の眞髓

城崎郡八條村八條信販購組合は柳行李原料の購買、製品の販賣に成功し事業組合としては縣下屈指の組合なるが、其の事務所及倉庫は豊岡町に在り、今次の震災火災突發するや、組合員及其の家族は自家を顧みず、事

務所及倉庫の警戒に任じ幸にして災厄を免れたるは全く天祐にして組合員何れも歡喜しつゝあるか、危難に臨みて、其の家を忘れ一意専心組合の保護に努めたるは共力一致の眞髓を發揮したるものにして、此の精神在りてこそ眞の産業組合と謂ふべく其の行動は賞するに餘りあり。

◆兵庫縣信用組合聯合會の見舞狀

兵聯第三九九號

大正十四年五月二十七日

兵庫縣信用組合聯合會

城崎郡各所屬組合宛

拜啓陳者今般御地方未曾有之大震災ハ其慘禍激甚ノ趣實ニ驚愕慨嘆之至ニ不堪候殊ニ貴組合及組合員之御災難ノ程モ如何ト心痛憂慮罷在候次第ニ御座候而シテ震災ノ爲御地方ノ産業及經濟上ニ及ホス影響ハ極メテ大ナルモノ可有之從テ之ガ對應上必要ナル資金ニ關シテハ本會ハ所謂共存同榮ノ本旨ニ鑑ミ可及的御融通ノ便利ヲ相計以テ御地方復興ノ一端ニ資スル所存ニ有之候間差當リ借入ヲ要スル資金ニ付テハ其用途及見込金額ヲ記シ被害狀況ノ詳細ト共ニ至急

本會宛直接御申越相煩度先ハ右不取敢以書中御見舞旁得貴意度如斯候 敬具

◆各組合の情報

◇口佐津信購組合

拜啓今回の丹但大震災の義に付早速誠懇御懇篤なる御見舞に預り難有御禮申上候就ては當時紙上に於ては非常に概括の状況所報有之候由にて御心配懸け申候段恐縮に存候然る處本村本日只今迄の状況は大畧左記の通りに有之此分なれば被害輕微にて終熄するものかと樂觀し喜悅致し居り候に付御安神被下度何れ御拜眉の節萬々御禮可申上候得共不取敢書面を以て右御禮旁々状況御通報申上候 早々敬具

廿三日午前十一時十分激震數回以來三十分乃至一時間ヲ隔テ、餘震絶ヘズ四日、五日、六日、七日ニ至ル今尙ホ餘震續行ス漸次微震トナレルモ時々激震ヲ加フルニ付村民ハ全部二十三日以來山ニ野ニ海濱ニ假屋ヲ作り露ヲ凌ギ炊事モ又其附近ニテ行ヒ夜間ハ火ヲ扱ハシメズ消防組其他ニヨリ晝夜警戒ヲ續行ス一般神經過敏トナリ微震ト雖モ直チニ屋外ニ飛出ス等人心恟々トシテ業務ニ就カムトセズ

損害ハ倒壊家屋二戸半壞八戸ヲ始メ軒傾キ瓦ヲ落シ軒ヲ損フモノ殆ンド全家屋ニシテ而シテ今一ト搖リ搖ラレナバ殆ンド倒壊スルモノト想像セラル其ノ損害ハ唯今ノ處概略五六萬圓ナリ其他山崩レ七ヶ所三町歩餘龜裂ニヨリ噴水噴砂シタル箇所千餘ヶ所ナリ其ノ耕地ニ屬スルモノハ用水保持力ヲ宅地其他ニ於テハ土地陷落ヲ何レモ憂慮シ居レリ約二寸陷落或ハ隆起シタルモノ現ニ數ヶ所アリ井水河川源水ハ一時泥水ト化シタルモ日ヲ經ニ從ヒ漸次清淨シツ、アリ 大正十四年五月二十七日午後四時

◇八代村信購販組合

拜啓今回北但の大震災に對し深甚なる御慰問に預り難有奉感謝候幸にして當組合及組合員共家屋の被害並人畜等異狀無之候條御安堵被成下度候然し昨日迄は養蠶用火は絶對に用ひず屋外にて炊事並露營は一般に實行致し稍安定致候先は御報申上候、草々敬白 (五月三十一日報告)

◇日高信購販組合

拜啓過日の激震に際し早速御見舞被下難有御禮申上候當地は當時戶外に避難せし位にて被害無之從つて組合

員一同無恙に有之全く天祐かど喜び居り候も城崎、豊岡其の他八箇組合區域には大小の被害有之爲に罹災以外の十八箇組合を以て救援會を組織し組合の醸出に依り共存同榮の微意を表することに努め居り申候先は御禮旁御報まで如斯御座候 敬白 (五月三十一日報告)

◆清瀧村信購組合

拜復今回北但地方の震災に就ては早々御見舞狀頂戴仕難有厚く御禮申上候幸にして當地は組合、組合員共何の災害も無之候間御休心被下度右御禮申述度如斯御座候。(五月三十一日報告)

◆西氣村信販購組合

拜啓當地震災に際し早速御見舞狀に預り難有御厚禮申上候今回の激震は城崎、豊岡町の慘狀目もあてられず候へ共幸に當村には些の被害も無之一同無事に候間御休心被下度先は御禮まで如斯御座候 草々 (五月三十日報告)

◆御崎信利組合

拜復北但馬地方の大震災に付御見舞被下甚だ難有厚く御禮申上候幸に當組合事務所にも組合員にも何等の變り御座なく無事にて日々働き居り候間御休心被下度候

右は乍失禮御返事申上候。(六月二日報告)

◆三原信購販組合

拜啓御見舞狀難有御座候今回の大震災は但馬稀有の事とて一時はごうなるかと案じ候も幸に當組合は震源地に、はなれ居る事とて少しの被害も無之不幸中の幸ひと喜び居り候條御安心被下度候右御禮旁御通知申上候 (六月一日報告)

◆合橋信販購利組合

拜啓北但大震災に付御見舞狀を忝ふし奉感謝候隣接城崎郡は實に慘狀を極め候へ共出石郡は被害輕微當合橋村は殆ど無被害の狀態に有之候右御答禮旁御報告申上候 敬具 (六月一日報告)

御斷り

一、右の外報告に接したるも印刷の間合はず次第に掲載す
二、本誌は多忙、且材料を數次に提供したる爲印刷不体裁を免れず。(編者)

◆被害調査

城崎町	戸數	人口	倒潰	燒失	死亡	負傷	行方不明
	600	3,600	20	50	2	15	10

津山	1,130	1,000	10	20	1	5	3
小瀬	800	750	5	10	0	2	1
氣比	1,100	1,000	10	20	1	5	3
田結	1,100	1,000	10	20	1	5	3
三原	1,100	1,000	10	20	1	5	3
内川	1,100	1,000	10	20	1	5	3
樂原	1,100	1,000	10	20	1	5	3
結原	1,100	1,000	10	20	1	5	3
上浦	1,100	1,000	10	20	1	5	3
來谷	1,100	1,000	10	20	1	5	3
竹野	1,100	1,000	10	20	1	5	3
合計	11,100	10,000	110	220	11	55	33

合計	11,150	6,650	8	1	4	1	1
村岡署管内	1,000	4,500	1	1	1	1	1
計	1,000	4,500	1	1	1	1	1
計	1,150	6,650	1	1	4	1	1

◆鯨鮓及鱈鮓の共同購入

本縣購買組合聯合會に於ては昨年既に好成績を挙げたるに鑑み五月二十二日付を以て各産業組合に對し左の照會を發したり。
拜啓益々御清榮の段奉賀候陳者北海道に於ける本年度練類の漁獲も終局に近づきたる模様有之九十萬石乃至九十五萬石の大漁にして價格は目下小樽函館市場正五等格貳千六七百圓を往來し割安に考へられ候も更に昨年の安値を豫想し或は貳千貳參百圓の出現あるべきかを唱へ又一面漁業家側は昨年の高値參千貳參百圓を豫想して賣急がざる様子も見受けられ候而し乍ら新鮓出廻りの最盛期に至らば單に金融關係のみにも相當下押あるべき事と存候殊に既往十數年來の實際に徴するも六七七月乃至七八月は最低價額を現し爾後は順次上騰するを常と致候に付本會は

左記方法に依り此の際御注文を取纏め最も有利の買付を了し度と存候間多少に拘らず御申込被下度爲御参考昨今の産地値段は

鯨ノ粕、正五等格 貳千六百五十圓 百石建
 同上、上五等格 貳千七百八十圓 同上
 鱈 粕、上等品 千九百圓 同上
 運賃諸掛一切を百石に付貳百參四十圓乃至貳百五六十圓を加算し當地着値段とす。
 有之候依て左記御了承の上別紙申込書へ所要數量其他御記載御送付被下度此段御照會申上候。

記

一、申込時期

第一期 六月五日限 追肥用
 第二期 六月末日限 同上
 第三期 七月末日限 春秋用
 第四期 九月末日限 同上
 但大阪、神戸又は北陸方面の在荷を買入れ輸送するものに在りつは隨時申込を受く。

一、買入價額

本文の通にして豫定し得ざるも本月末又は六月上旬貳千四百圓に底入れし從て思惑買旺盛となり

急激に一時暴騰すべきかと存候へ共本會は全力を盡し相當の時期に於て買入るゝ見込に付一任せられたし

一、輸送方法

最も信用ある運送業者と特約し勉めて迅速安全なる方法を講じ遺憾なきを期すべし但し春秋使用の分は其時期に至り輸送すべきに依り多少の金利又は倉敷保険料を要するも結局に於て有利と信ず而して輸送期間は二週間乃至三週間以内の見込なり

一、代金取立方法

場合に依り手附金又は若干の前拂金を要することあるも本會は一旦荷受を爲し更に荷爲替又は取立手形に依り代金の支拂を受く。

一、希望又は注意

特別の希望又は注意せらるべき事項あらば申込書の備考欄に詳記せられたし。
 追て右魚粕の外追肥用の各種肥料に就ても極力低廉迅速に御需用を充たし候様取計ひ申すべく候間是亦多少に拘らず御注文下され度尙價格等は時々御電照願度候。

兵庫縣農工銀行特設機關
 (兵庫縣農工銀行) 三丁目一丁目市戸神
農工證券株式會社

電話 三三三三
 印刷部 一三二〇
 營業科 三三三〇



▲兵庫農工銀行株特價提供▼

公債ノ如ク確實テ最終利廻年八分以
 上トナリ、官廳ノ保證金、納稅擔保、
 各團體ノ基本財産、子女養育、結婚
 資金トシテ流通自在

建物、家財、商品、貨物等火災保險
 及生命、傷害、盜難、運送ノ各保險
 仲介館ニ火災保險ヨリ見タル建物ノ
 構造配列位置等設計ニ就キ技師派遣

技術優秀、刷費低廉、納期正確、御
 制定ノ用紙類ニテ納期ニ餘裕アル御
 注文ハ前以テ御用命下サレバ破格ノ
 刷費ニテ提供

▲御一報次第案内書送呈▼

(大正二年三月七日第三種郵便物認可)(毎月一回五日發行)

謹て震災御見舞申上候



國際運送株式會社

資本金壹千萬圓

營業項目

鐵道運送業	海運業	回漕業	船業	ステベドアー	稅關貨物取扱人
-------	-----	-----	----	--------	---------

神戸市榮町通三丁目

電話三宮

持長一七七番
長一九〇番
長七九〇番

一〇八一番
一九〇七番

國際運送株式會社神戸支店

所屬荷扱所

神戸驛荷扱所、神戸手小荷物取扱所、盤川派出所、高濱派出所、三宮荷扱所、神戸港出張所、小野濱荷扱所

神戸市兵庫濱崎通三丁目(兵庫驛前)

電話兵庫

長二一四番
長二一五番
長二六一番

國際運送株式會社兵庫支店

所屬荷扱所：兵庫手小荷物取扱所、新川荷扱所、和田岬荷扱所

大正十四年六月二日印刷
大正十四年六月五日發行

發行

兵庫縣廳內
所屬 產業組合中央會兵庫支會
產業組合中央會兵庫支會內

印

刷

神戸市相生町三丁目五十六番屋敷
神戸市相生町三丁目五十六番屋敷

(定價一部
金一圓)